

CONTENTS

- 2 神様とラポール イ・ヨンフン牧師
- 4 今日のマナ チョウ・ヨンギ牧師
 - ・疑いの心を持つてはいけない
- 6 メッセージ 志垣重政牧師
 - ・熱い祈り
- 9 大きな図で世界を読む キム・ジョンチョル監督
 - ・ライースィー大統領就任とイラン・イスラエルの緊張関係
- 18 イム・ヨンシム宣教師物語
- 24 靈的リーダーシップ イ・ヨンフン牧師
 - ・満ち足りた心
- 28 もう一度読む「山奥から届いた手紙」 … デ・チョンドク神父
 - ・ノンクリスチャン(未信者)と結婚しても良いですか？
- 33 レビ記ライフ カン・デウィ 牧師
 - ・作戦命令「祭司」
- 40 狹き門狭き道 カン・サン牧師
 - ・お金の下で生きるのか？
 - お金の上で生きるのか？

この「しなんげ」は、おもに韓国版信仰界 2021年9月号より抜粋して、翻訳し再構成したものです。ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

神様とラポール

イ・ヨンフン牧師

医者は「ラポール」という言葉をよく使います。ラポールとは、心理学に関する用語で、二人の間にある共感できる人間関係を意味しています。医者が患者を治療する相手としてではなく、関係の相手として捉えて、患者と肯定的な絆を結びながら治療すると、治療効果がより上がるといわれています。

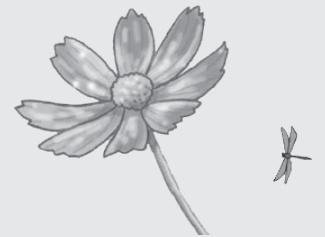
こうした理由から、最近の医学部では、患者と接するときの傾聴する姿勢や適切な言葉遣いを教えています。さらには手振りなどのジェスチャーまで教育しています。患者とのラポールを築ける医者を育てるためにこうしているのです。

医者が患者とのラポールを大事にするように、神様も私たちとのラポールを大事にされています。それは神様が私たちとの関係を回復するために、ひとり子イエス様を十字架につけられたことから確認できます。神様は神の子とのラポールを構築されようと、私たち

の祈りをいつも聞いてくださいます。また、神様は私たちとの意思疎通を図るために、世の中で最も美しい言葉で書かれている聖書を用意されました。

さらに神様は毎日愛の目で私たちを見守ってくださいます。また、共に歩んでもくださいます。神様は私たちとラポールを築くために、愛の合図を常に送ってくださっているのです。私たちもその神様のラポールに応じるべきです。祈りを通して神様と会話し、聖書を通して神様の御旨を探り、聖霊様が心の中にいつもいるようにしないといけません。

創世記の登場人物のなかで、メトシェラ、エノク、ノアには共通点があります。それは神様と毎日共に歩んだことです（創世記 5:22-24、6:9）。神様と共に歩んで、神様とのより深いラポールを築く私たちになることを願います。†



疑いの心を持ってはいけない

祈りがかなえられるためには、神様の信仰が必要です。神様の信仰を持ってからは、祈り続けなければなりませんが、その祈りはいつまでもするのでしょうか。

イエス様は、「だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないで信じるなら、そのとおりに成るであろう。…なんでも祈り求めるることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。」（マルコ 11:23-24）と言われました。

この山が海に移って入ると確信できるまで、祈りが必要です。神様の信仰を所有したとしても、私に確信がなければいけません。したがって、心の疑いをすべて追い出し、心が平安になるまで祈り続けなければならないのです。神様の信仰を持って祈り、確信が生じたあとは、言葉で命令してください。

「山よ、海の中にはいれ。事業は拡張された！」

信仰と言葉は一致しなければなりません。あなたの心に信仰が入ってくると、目には何の証拠も見えず、耳には何の音も聞こえず、手で触れられるものもなく、前途は真っ暗であっても、口で

告白しなければなりません。なぜなら、言葉には奇跡をもたらす力があるからです。

実際に山が移った証があります。あるおばあさんが一山越えた先の教会に通っていました。あまり高くなかった山でしたが、高齢でしたので、山越えはなかなか大変でした。それで、そのおばあさんは尾根でしばらく休む間、「神様、山を越えるのがすごく大変です。この山を移してください」と祈りました。

ある日、おばあさん的心に信仰が入ってきて、山が移るという確信が生じました。おばあさんは教会を往復するたびに、聖書で読んだ通り「山よ、海に入りなさい」と命令しました。すると、本当にその山が海になりました。時は20世紀前半で、飛行場ができるようになりました、その山は切り崩され、平らになったです。

私たちの一生には、数え切れないほどの問題の山が迫ってきます。その都度、私たちは神様の信仰を持って、心に確信が生じるまで祈り、確信が生じたあとは、信仰を持って命令しなければなりません。そのとき、皆さんは成功の人生を送ることができます。†

チョウ・ヨンギ
ヨイド純福音教会元老牧師





熱い祈り

——マルコによる福音書1章32～35節——

「夕暮になり日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのところに連れてきた。こうして、町中の者が戸口に集まつた。イエスは、さまざまの病をわずらっている多くの人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。また、悪霊どもに、物言うことをお許しにならなかつた。彼らがイエスを知っていたからである。朝はやく、夜の明けるよほど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。」

神様のために熱心に働いているときに、奉仕や献身が主体となって、神様のことを忘れてしまっているなら、未来転倒と言わざるを得ません。もちろん、神様は『ありがとう』と言ってくださるでしょう。しかし、神様は寂しく感じておられるはずです。なぜなら、神様は皆さんと交わりを最も喜ばれるからです。神様不在の奉仕や献身は、問題に会うと大きな試みとなって、信仰から離れてしまう危険性をはらんでいるのです。神様との交わりがあつてこそ、安息を得、平安を得ることができます。そして、そこから得られるエネルギーで奉仕を為すべきです。

イエス様はどうやって『救いの大事業』を成し遂げられたので

イエス様には神様に対する熱い祈りがありました。

皆さんの熱望をどこに注いでいますか？

富ですか？

人気・名誉・権力・出世・快楽ですか？



でしょうか。その答えは、祈祷生活にあります。イエス様は神であられますから、人となって来られたため、祈りによる神様と深い交わりが必要だったのです。では、どうすればイエス様のような祈りをすることができるのでしょうか。

それは、熱望的な祈りの姿勢を持つことです。本文は、安息日の翌日の話です。まずは、イエス様が安息日にどれほど忙しかったかを見てみましょう。「それから、彼らはカペナウムを行つた。そして安息日にすぐ、イエスは会堂にはいって教えられた」(マルコ1:21)。会堂でメッセージしているときに事件が起きます。悪霊に憑かれた者が騒ぎ始めたのです。イエス様はこの悪霊を追い出しました。説教と悪霊追放の祈り、大変なエネルギーが必要だったはずです。休息が必要だったのは言うまでもありません。ペテロはイエス様を気遣つて自宅にお連れします。「それから会堂を出るとすぐ、ヤコブとヨハネとを連れて、シモンとアンデレとの家にはいって行かれた」(マルコ1:29)。ところが、ペテロの家には熱病で苦しんでいた義母がいました。ここでも、イエス様は切に祈られて、病を癒されました。この噂を聞いて村中の病人が集まります。「夕暮になり日が沈むと、人々は病人や悪霊に

つかれた者をみな、イエスのところに連れてきた」(本文32節)。イエス様は嫌な顔一つせずに、全員の病を癒してくださいました。一日中奉仕、祈り、癒しで疲労は極みに達していました。私たちだったら、その翌日、何のアポもなければ、泥のように眠りたいと考えるでしょう。しかし、イエス様は違いました。「朝はやく、夜の明けるよほど前に、イエスは起きて寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた」(本文35節)。イエス様にとって、祈りは休息であり、神様と交わることのできる特権であり、休息そのものだったからです。人となって来られたイエス様に大変なストレスがかかっていたことは論ずるまでもありませんが、イエス様は祈りによってストレスを解消され、ご自身の為すべき事業を遂行されたのです。

熱望的な祈りと礼拝がエネルギー源になり、そこから喜びと力を得ることができます。イエス様は就寝されるとき、『明日早く起きて祈ろう。父なる神様から力を貰おう』と考えられたはずです。同じように、祈りが皆さんの安息となり、喜びとなり、楽しみとなり、力となりますように。マルティン・ルターは『忙しくなってきたから、もっと祈ろう』と告白しました。私たちと正反対です。そして、晩年は一日の十分の一にあたる2時間以上を祈りの時間としました。イエス様は祈りを切に求めました。「神よ、しかが谷川を慕いあえぐように、わが魂もあなたを慕いあえぐ」(詩篇42:1)のような想いだったのでしょう。イエス様には神様に対する熱い祈りがありました。皆さんの熱望をどこに注いでいますか? 富ですか? 人気・名誉・権力・出世・快楽ですか? 違うはずです。イエス様が持たれたのと同じ熱望が皆さんと共にありますようにお祈りいたします。†

大きな図で世界を読む

ライースィー大統領就任と iran・イスラエルの緊張関係

| キム・ジョンチョル | www.bradtv.net



キム・ジョンチョル監督は映画「回復」「許し」「第三聖戦」「ルターの二つの顔」等を作ったキリスト教ドキュメンタリー映画の監督で、イスラエル中東の専門家です。特に『回復』はモナコ国際映画祭でドキュメンタリー部門のグランプリを受賞し、『ルターの二つの顔』はLAマインドフィールド映画祭でドキュメンタリー部門のプラチナム賞を受賞しました。現在はイスラエル宣教の専門放送「ブラッドTV」を7年間運営しています。

去る8月5日、セイイエド・エブラーヒーム・ライースィー氏が第13代目イラン大統領に就任しました。イスラム原理主義・強硬派として知られる彼の就任について、欧米メディアの評価はとても否定的です。「いつ爆発するかわからない時限爆弾の導火線がついに燃え始めた」と表現するほどです。

イスラエルの立場はより難しいものとなっています。ここ十数年間、イランとの関係が深刻化するなか、保守派のハサン・ロウハーニー大統領が退任し、代わりに強硬派政権が登場したからです。すぐさま軍事的衝突に備える必要が生じ、さらにはイスラエルの存亡をより深刻に考えざるを得ない状況になりました。

イランへの敵対視を露わにする極右政権のベネット・イスラエル新首相とライースィー・イラン大統領。この強者同士の対立はどのような発展をするのでしょうか。これから先、イスラエルと



米国とイスラエル国旗を燃やすイラン国民

イランの政治的・軍事的な緊張関係はより悪化し、終わりが見えない深刻な状況になっていくと予想されます。

なぜ、イランはイスラエルを地球上から消滅すると公言し、イスラエルはイランを一番危険な敵対国家として扱うようになったのでしょうか。両国の葛藤はいつから始まったのでしょうか。

歴史的遺物から確認できるクロス王の勅令

元来、イスラエルとイランは古代時代から良好な関係を築いていました。旧約聖書のエレミヤ書に重要な預言が出てきます。預言者エレミヤは、神様に逆らい不従順（偶像崇拜）を続けるのであれば、神様の怒りの審判を受け、南ユダ王国は滅びると警告しました。しかし、王と民たちはその言葉に耳を傾けず、むしろ彼を迫害し、殺そうとまでしました。



クロスの勅令が刻まれた円筒形の粘土土器
(1878年バベル塔の南寺院壁から、イギリス人によって発見される)

エレミヤは迫害に屈せず、大胆に預言します。その中には本当に驚くべき預言がありました。それはバビロンに連行された捕虜たちが70年後に神様の恵みにより帰還するという内容でした。

「主はこう言われる、バビロンで七十年が満ちるならば、わたしはあなたがたを顧み、わたしの約束を果し、あなたがたをこの所に導き帰る。」(エレミヤ書29章10節)

その後、B.C.539年にバビロン帝国を占領したペルシャ王クロスを通して、この預言は正確に成就しました。

「ペルシャ王クロスの元年に、主はさきにエレミヤの口によって伝えられた主の言葉を成就するため、ペルシャ王クロスの心を感動されたので、王は全国に布告を発し、また詔書をもって告げて言った」(エズラ記1章1節)

「ペルシャ王クロスはこのように言う、天の神、主は地上の国々をことごとくわたしに下さって、主の宮をユダにあるエルサレムに建てる 것을わたしに命じられた。あなたがたのうち、その民である者は皆その神の助けを得て、ユダにあるエルサレムに上っ

て行き、イスラエルの神、主の宮を復興せよ。彼はエルサレムにいます神である」(エズラ記1章2～3節)

この箇所に登場するクロス王の勅令を疑問視する学者は大勢いました。しかし、この聖書の記述が歴史的事実であったことを証明する重要な遺物が、考古学者たちによって発掘されました。それは「クロスのシリンドー」と呼ばれる円筒の形をした粘土土器です。

それにはB.C.539年にバビロンを占領したクロス王と最後のバビロン王ナボニドウス(ダニエル書5章に記録されている彼の息子ベルシャザル王はバビロン城の崩落とともに死亡)に関する記録が記されていました。この遺物は歴史的価値がとても高いため、現在はイギリス・ロンドンの大英博物館2階「古代イラン展示館」に保管されています。

良好な関係だったイスラエルとイラン

クロス王は占領地の文化や言語、宗教を破棄させるのではなく、尊重しました。クロス王の勅令に従い、バビロンの捕虜として捉えられていたユダヤの民は70年ぶりにエレミヤの預言通りにエルサレムに帰還しました。

旧約聖書のエズラ記とエレミヤ書は、1次から3次にかけて帰還した人々がエルサレム神殿と都市を再建し、信仰のリバイバル運動を展開した様子を伝えています。

クロス王がバビロンを滅ぼさなければ、もしくは捕虜帰還の勅

令を出さなかったならば、ユダヤの民はバビロンの奴隸として生き絶え、歴史の中に埋もれてしまったかも知れません。しかし、これは未信者の仮定にしかすぎません。B.C.700年頃、神様が預言者イザヤを通して、「クロス」という名前を約160年前にすでに呼ばれていました(イザヤ44:28)。

神様の道具として用いられたクロス王とペルシャ帝国は、イスラエル民族にとって絶対的にありがたい存在なのです。特にクロス王の名前は聖書に30回以上登場し、イスラエルでは永遠に忘れられることのない名前となりました。

ペルシャ帝国の滅亡以降、関係が途絶えていたイスラエルとイラン(1935年ペルシャをイランに改名)は、1948年に良好な関係を再び結びます。A.D.70年にイスラエルがローマによって滅ぼされてから約2000年ぶりに、神様の導きによって独立を宣言した時のことです。

イギリスのパレスチナ委任統治が公式に終わった日である1948年5月14日、イスラエルは突然独立を宣言しました。アメリカのハリー・S・トルーマン大統領はすぐにイスラエルの独立を認めましたが、中東のアラビア諸国は絶対に認めないと反対しました。また、ヨーロッパ各国は新国家の誕生を承認するか否かについて、互いに様子を伺うばかりで、態度をなかなか明らかにしませんでした。その時、イランはイスラム国家の中でトルコに次いで2番目にイスラエル建国を承認したのです。

その後、イスラエルとイランは外交関係を結び、イランの首都テヘランにはイスラエル大使館が設置されました。イスラエルは

イランの原油を輸入するなど、経済的にも近しい関係となりました。これはある意味当然のことです。イラン人はアラブ人と言語も民族も異なっており、地理的にも遠く離れているため国境問題で衝突することもなく、特にイランは親欧米政策を行なっていました。

親欧米パフラヴィー王朝の凋落とイスラム革命

良好だったイスラエルとイランの関係は、1979年にイランに押し寄せた「イスラム革命」によって急転回します。1941年に父の後を継ぎ、パフラヴィー朝の2代皇帝に即位したレザー・シャー・パフラヴィー氏は、土地改革・国営企業の民営化・女性参政権を掲げる近代化政策「白色革命」を断行しました。

しかし、土地改革はイスラム寺院の土地縮小を招くことになるため、イスラムの聖職者たちは強く反発しました。さらに急進的な政策の副作用と経済政策の度重なる失敗により、民衆までもが反対します。反パフラヴィーのデモが全国に拡散すると、パフラヴィー氏はこれに耐えることができず、1979年1月にエジプトに亡命することで、38年の長期政権は幕を下ろしました。

15年間フランスで亡命生活をしていた反政府運動の中心的人物であるアーヤトッラー・ルーホッラー・ホメイニー氏が、イラン国民の熱烈な歓迎を受け、1979年2月に帰国します。彼は憲法を制定し、「イランイスラム共和国」を樹立したあと、自身の秘書であった最側近の人物を大統領に立てます。そして、自らは「終身最高指導者」となり、あらゆる制限を受けない絶対的権力を行使し始めました。



フランスで15年の亡命生活を終え、1979年帰国降るホメイニー氏

絶対権力を利用し、反対派を粛清したホメイニー氏は「イスラムのための、イスラムによる、イスラム共和国」をイランのアイデンティティーとして確立し、イスラム原理主義を政治や社会の基本的秩序として位置づけました。すなわち、「イスラム革命」を断行したのです。

ホメイニー氏は、アメリカを必ず地球上から排除しなければならない大きなサタン、イスラエルを小さなサタンと規定し、イスラエルに対して敵対色を強めていきました。ホメイニー氏が主張するイスラム・シーア派の終末論によれば、終末時代に「マフディー」というメシアが到来するとされ、その準備をするために、ムスリムは全ユダヤ人を殺さなければならないというのです。

ライースィー大統領就任とイラン・イスラエルの関係

約200発以上の核兵器を保有しているイスラエルとユダヤ人を地球上から排除することは、現実的に不可能です。結局、イラン

がイスラエルを排除できる唯一の方法は核兵器開発だけになります。そのため、イランは核兵器開発に注力し、国際社会の圧迫や制裁を潜り抜けてでも、核兵器を完成させようとしています。

イランの新しい大統領就任にイスラエルが焦り始める理由は、ホメイニ氏の原理主義・強硬路線をそのまま引き継ぐ人物であるエブラーヒーム・ライースィー氏が大統領であるからです。彼は30年間法曹界で活躍し、対アメリカ強硬メディアを主導してきた聖職者であり、1988年には1,000人あまりの政治犯の死刑宣告に関わったことで、欧米圏から制裁を受けているほどの強硬派です。

イランの大統領任期は4年ですが、再任する可能性もあります。イスラエルは長くて8年間、強硬派大統領と対峙しなければならないのです。しかし、それだけではありません。現在の最高指導者であるアリー・ハーメネイー氏（82歳）が亡くなると、エブラー



2021年8月第13代イラン大統領に就任したエブラーヒーム・ライースィー



イスラエル新首相ナフタリ・ベネット

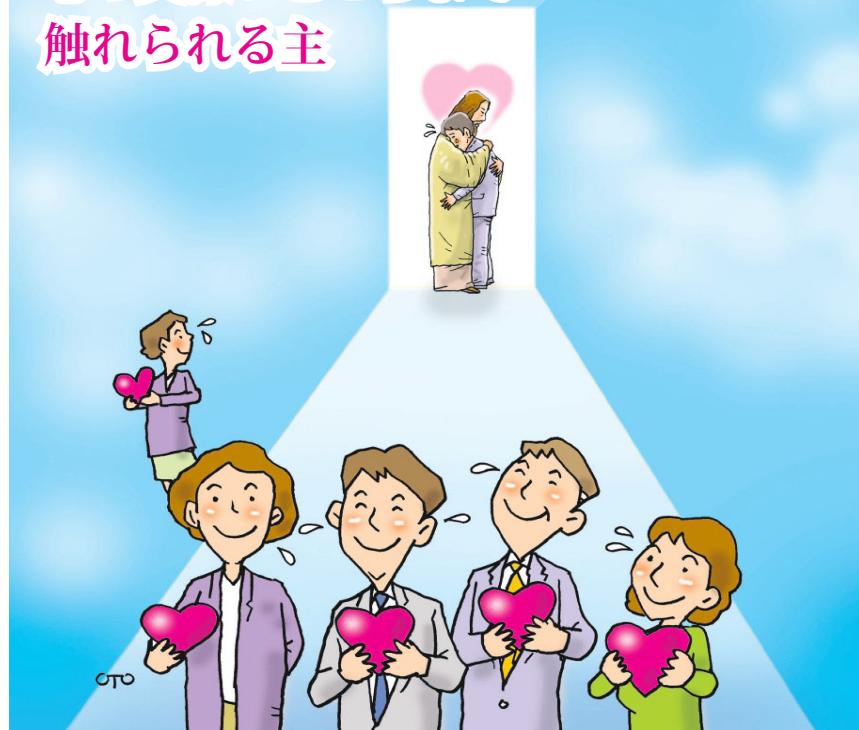
ヒーム・ライースィー氏（61歳）がその地位に就任すると予想されています。もし、終身職であるイラン最高指導者の座をエブラーヒーム・ライースィー氏が引き継ぐとすれば、イスラエルは最悪の状況を迎えることになります。

「テヘランの屠殺者」というあだ名をもつ歴代最高の強硬派大統領が核開発を推し進め、その成功後には最高指導者になるとすれば、その後はどのような恐ろしいことが起きるでしょうか。イスラム・シア派の終末論に心酔している「絶対権力者」と絶対武器である「核兵器」の結合は、どのような結末を呼び起こすのでしょうか。

我々信仰者は、今後も時代の兆候を見定め、神様の導きを求めるながら、イスラエルとイランの緊張関係を注視していく必要があります。†

(参考：しなんげ4月号「イランの核開発と第3次世界大戦の影」)

私たちの 心の奥深いところまで 触れられる主



【秘密1】

アメリカ・シカゴにあるいくつかの教会から、リバイバル聖会を導いてほしいと頼まれました。私はアメリカに一回行くと、5, 6ヶ所の教会の集会を導きます。ある教会でリバイバル聖会があり、その教会の牧師から信徒のお店に一緒に来てほしいと頼まれました。教会の女子執事のお店で、大規模のテナントを借りて、

飲食店の開業準備をしていたのですが、周辺から開業を止めるようく苦情が寄せられ、訴えられていました。

従業員の給与やテナントの賃料などの経費を支払うのに大変な状況で、講師である私がその店に行って、祈ってほしいとのことでした。牧師と一緒にその店に向かいました。店の前で待っていた執事は、慌てて私を空いている部屋へと連れて行きました。

「あなたをお店に呼んだ理由があります。開業の問題は大きいですが、より大きな問題は私の夫です。このように開業ができず、損失が重なり、私は胸がつぶれるくらい苦しいのですが、夫は非常に呑氣です。イエス様も信じていません。精神的に問題があるのではと思います。今から夫をここに連れて来ますので、まずは夫のために祈ってください」

少しすると、執事のご主人が部屋に入ってきました。彼は祈る気がないように見えましたが、私は目を閉じて、祈り始めました。その時、ご主人の心の思いが私の口から出てきたのです。

「どうか開業しないように、店のドアは閉じていろ！」
「どうか開業しないように、店のドアは閉じていろ！」

私の口からこの言葉が次々に発せられると、ご主人は非常にびっくりし、怖がりながら、私の祈りを止めました。

リバイバル聖会の最高の実

「祈るのをやめてください。その言葉は、私が毎朝お店に来るたびにドアに向かって言っている言葉です。妻にバレたら、大変

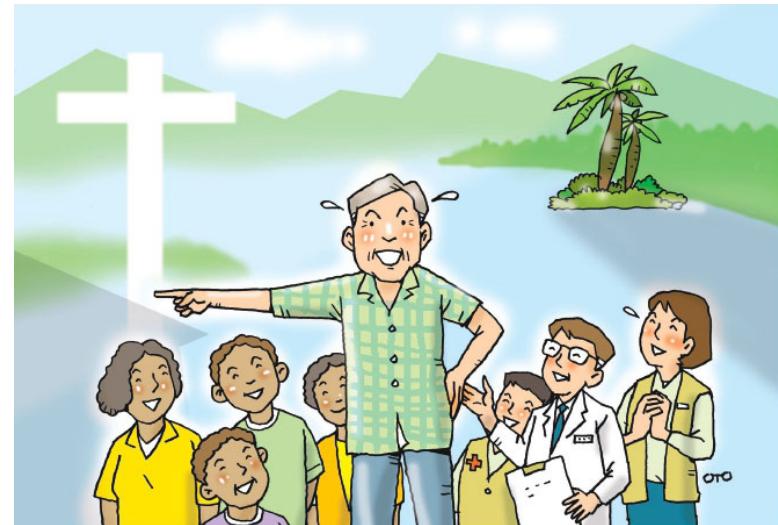
なことになります。私はシカゴに移住してからの35年間、飲食店をやってきました。とても狭いキッチンで長年過ごしてきました。お金は稼ぐだけ稼いだので、今さら飲食店をしなくても生きていけます。いや、私は死んでも、キッチンには入りたくありません。数年だけでもいいので、私の自由に生きたいのです。ところが、妻は財産をすべて投資して、再び飲食店をやろうとしているのです。幸いなことに、訴えられて今は開業ができない状況です。私はとても嬉しいのです。ですので、この店が開業しないように祈ってください。この秘密を守っていただければ、私は何でもします」

「開業ができないように、つぶやいていたことは内緒にしますので、リバイバル聖会に参加してください。虚しく唱えるのではなく、神様にきちんと祈ってみてください。神様があなたの願い通りにしてくださいます」

リバイバル聖会で得た最高の実は、そのご主人でした。6ヶ月後にシカゴを再訪問すると、そのご主人は真実な信仰のあるクリスチャンとなって、教会のすべての奉仕を引き受けっていました。結局、飲食店は開業できなかったそうです。妻のほうはショッピングモールで高級婦人服を売っていますが、飲食店よりもお金を稼げていると喜んでいました。そして、ご主人はイエス様を信じる楽しさ、教会で奉仕する喜びにはまっていました。再びその夫婦に会った時、私はご主人に向かって親指を立てるジェスチャーをしました。ご主人の祈りが勝利しました！

【秘密2】

ハイチ共和国に医療宣教団が到着しました。彼らは25名のア



メリカやシカゴの医師たちで、医療奉仕のためにハイチにある宣教団体「大切な人たちセンター」を訪問したのです。ハイチは発展途上国です。「大切な人たちセンター」は、ハイチの青少年にパソコンをはじめ、英語やハングル、聖書を教えるために、無料のパソコン教室をしています。

そのため、彼らはスーツケースにパソコンを1台ずつ入れて持っていました。ハイチは税関の基準が明確ではなく、装置もないため、人がチェックして税金を徴収します。変な検査員に当たると、蚊帳にまで関税を支払わないといけません。私は短期宣教チームが何の問題なく入国できるように、たくさん祈りました。

空港の荷物検査員は貨物やスーツケースを荒く扱うため、パソコンが壊れるのではないかと心配しました。最後の25番目の医師が無事に空港から出てきた時は、皆で歓声を上げました。



短期医療宣教チームはさっそく翌朝から犯罪多発地帯として有名なシテ・ソレイユで医療奉仕をする予定でした。そのため、眼科、内科、耳鼻咽喉科、歯科などの分野別に会議をして、必要な備品を準備しました。

翌朝、短期医療宣教チームと一緒にハイチに来たシカゴグレース教会の長老夫妻が私のところにきました。その夫妻から「医療奉仕に同行しないが、祈ってもらいたい」と言われました。

長老の悲哀の告白 「key」

長老のために祈ると、誰も知らない長老の悲哀の告白が私の口から出てきました。

「神様、私はもう何の役にも立たない存在になりました。どこに行っても、留守番役だけです。私は神様の働き、魂を救う働きがしたいのですが、実際に私に与えられる仕事は、家と荷物を守ることだけです。そのため、いつもkey（鍵）だけを預かっています」

この祈りの途中で、「key」という言葉を聞いた長老は号泣していました。その長老は元軍人将校で、現役時代は多くの部下がいて、虎のように咆哮していた方でした。しかし、持病があって除隊してからは、どこに行っても荷物の見張り役で、keyを預かるだけでしたので、自分の境遇に落胆していたのです。長老は号泣したあと、手に握っていた無料診療所のkeyを私に見せてくれました。そして、まだ残っていた涙があふれ出しました。

私は長老のkeyを受け取りながら、「長老、シテ・ソレイユでの医療宣教を長老が指揮してください。神様が荷物を守られますので、人が守る必要はありません」と言いました。この言葉を聞いた長老は、医療宣教団の前線に立って、押し寄せてくるハイチ患者の全員が最高の診療を受けられるように号令する宣教の虎となりました。

心の奥深くに秘密をしまっている人に、その秘密を知っておられる神様が触れられると、その人は完全な神様の人、神様の働き人に変わります。

「ナタナエルは言った、『どうしてわたしをご存じなのですか』。イエスは答えて言われた、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」（ヨハネ1:48）。

ナタナエルにとって、いちじくの木の下は彼だけの秘密の場所でした。いちじくの木の下にいることは、誰にでも当てはまりますが、ナタナエルにとってそこは神様に黙想と祈りを捧げる特別の場所でした。

ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。（ヨハネ1:49）。†

満ち足りた心



主がくださる喜びの力

五輪教会のキム・ウンホ担任牧師は、教会を開拓する際に次の3つの原則を立てたそうです。

以前仕えた教会から聖徒を連れてこない

親族だけで教会を埋めない

物質的に困難なときでも、人に依存しない

キム・ウンホ牧師の教会開拓は、聖徒1人と学生2人からスタートしました。早天礼拝は牧師夫人との二人で捧げることが多く、涙なしには過ごせない日々が続いたそうです。キム・ウンホ牧師はなおさらひれ伏して祈り、感謝をいつも忘れないようにしてきました。あきらめずに喜びをもって働くことを努力したのです。

主だけを喜び、謙遜の姿勢を忘れないキム・ウンホ牧師に対して、イエス様が牧会に介入されました。その結果、五輪教会は20年で数万人が集う大型教会に成長しました。イエス様が与えられた喜ぶ力がそのようにしたのです。

喜べない状況で喜びを維持するのは、主が働かれるときだけ可能です。キム・ウンホ牧師が苦難の時代を経て学んだことは、ただ感謝して喜ぶことだと思います。低くなれば低くなるほど大きく臨む主の喜びが、満ち足りた心を持って主に仕えたキム・ウンホ牧師の人生を勝利に導いたのです。

「しかし、信心があつて足ることを知るのは、大きな利得である。わたしたちは、何ひとつ持たないでこの世にきた。また、何ひとつ持たないでこの世を去つて行く。ただ衣食があれば、それで足れりとすべきである」(テモテ第一 6:6～8)

牢獄に閉じ込められながらも満ち足りた心でいた使徒パウロは、ピリピ教会に送った手紙の中でこのように告白しています。

「わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ」（ピリピ 4:11）

「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる」（ピリピ 4:13）

刑務所と修道院の違い

1940 年代から神学的なベストセラーを著したデビッド・ソーパーは、彼の著作『神は避けることができない方 (God Is Inescapable)』でこう言っています。

「刑務所と修道院の根本的な違いは、不満か感謝です。これは確かな事実です。刑務所に収監された囚人は、起きていたら不満ばかりを言います。一方、自発的に修道院に入った聖職者たちは、起きていたら神に感謝します。囚人が感謝するとき、刑務所は修道院になります。聖職者たちが感謝をやめるときは、修道院が刑務所になります」

自由が制限されている状況は同じなのに、なぜ二者は正反対の反応をするのでしょうか？ ソーパーは「不満を言うか、感謝をするか」は、状況や環境などの外の問題ではなく、心の問題だと言っています。彼は現実をどのように受け入れるか、満ち足りた心を持っているか否かの違いだと話しています。

刑務所内の多くの人々は、自分の問題と過ちを償い、出所後の新しい人生を夢見ることなく、自由を奪われた悔しさだけを考えています。ですので、心は不平不満だらけで、人を恨んで憎むよ

うになるのです。

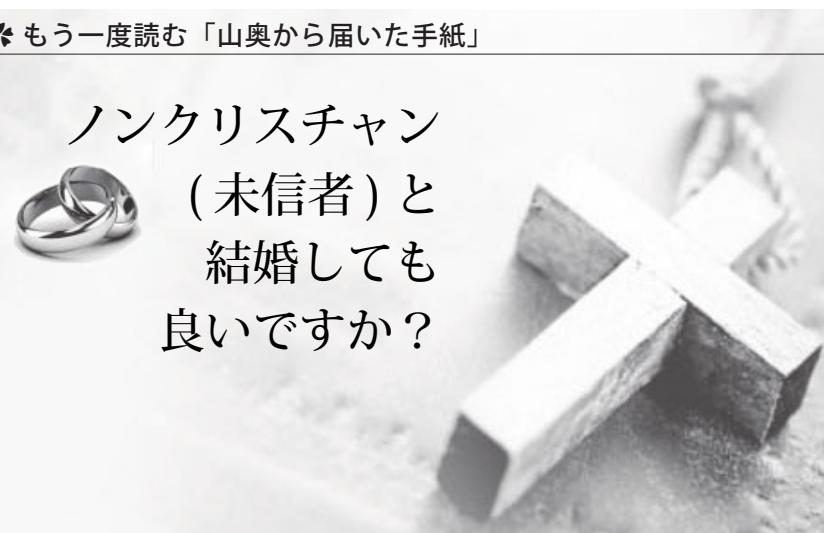
しかし、修道院の聖職者は、人生そのものが神の絶対的な恵みであることを悟り、満ち足りた心を持って主に仕えているので、感謝できるのです。存在すること自体が、主の恵みによりただで得たものだから、感謝するしかないと告白できるのです。これが、クリスチヤンが感謝できる理由であり、満ち足りた心を持った者に与えられる祝福です。

新型コロナ禍の終わりの見えない絶望的な状況であっても、いつかは夜明けが来ます。希望の明日を見つめながら満ち足りた心を持って、絶対肯定・絶対感謝の人生を送ってください。

「その怒りはただつかのまで、その恵みはいのちのかぎり長いからである。夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る」（詩篇 30:5）†

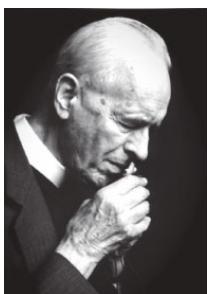
* もう一度読む「山奥から届いた手紙」

ノンクリスチャン
(未信者)と
結婚しても
良いですか？



「私は結婚適齢期を迎えたクリスチャンの青年です。最近、どのように配偶者を選ぶべきかという問題にとても悩んでいます。聖書を読みますと、未信者とくびきを共にするなど書かれていますが、ご存知のように、一部の青年クリスチャンは未信者の女性と結婚しています。彼らは、結婚を通して彼女の魂を主に導けば良いのではないかと主張しています。このような状況ですが、私はどうすればよいのでしょうか？」

—ミョンジン—



デ・チョンドク神父 (R. A. Torrey 三世)

1918年、中国山東省でアメリカ人長老教会宣教師の息子として生まれ、中国と平壌で幼い時代を過ごしました。アメリカ・プリンストン神学校で学び、聖公会に教派を移し、1949年に聖公会司祭叙階を受けました。1957年に韓国に来て、2020年召天されるまで45年間使役しました。1965年江原道太白市（カンウォンド・テベクシ）に「イエス院」を設立、活動しながら有名になりました。聖霊論と共同体に関する教えを通し、韓国教会とクリスチャンたちに深い影響を与えました

愛するミョンジン兄弟へ

本当に良い質問ですね。一般的には、良い妻を得ること（箴言18:22）とは、神様を畏れ敬う2つの家庭が結婚を通して結ばれることと同じです。あなたのすべての親戚は、神様の恵みで与えられた貴重な人々であり、彼らはあなたの生涯と、引いては子どもたちの人生をも豊かにしてくれるでしょう。自分の子どもがどのような祖父母やおじ・おばを持つことになるのかという将来についても、考えないといけないです。

そのため、教会の青年たちが未信者の女性と結婚することを不思議に思っています。教会内に適切な若い女性がいないからという理由だけではすまないと考えています。なぜなら、ほとんどの教会で、女性の比率が男性より多いからです。信者が未信者と結婚したがる根本的な理由として、美しさ・才能・身分の3つの要因があるのではないかと思います。

3つの誘惑

ある青年は、自分の結婚のために神様の御心を求める事もなく、自分が通う教会の青年部にいる多くのクリスチャン女性とは単なる友達として付き合っています。そうしたなか、ちょっとした美人の女性に出会い、たちまちに平常心を失ってしまいました。

その時になってようやく、彼はこの問題に対して祈り始めるのですが、時はすでに遅すぎました。なぜなら、彼は感情の罠にすでに陥っており、自分自身ではどうすることもできない状態だからです。

また、ある青年は、相手の女性が素晴らしい教育を受けている、音楽的な才能が豊かななどの何か優れた能力を持っているという理由で、自分にふさわしいパートナーとして選んでいました。

別の若者たちは、残念ながら多くの場合、野心あふれる母親の示唆により、身分が良さそうな人を選びました。この身分とは、教育に限らず、財産があるかどうか、政治的あるいは社会的な影響力を持っているかどうかなども含んでいます。

「素晴らしい家庭」を「神様を畏れ敬う家庭」という意味にするべきなのに、多くの場合で、神様が禁じているビジネスに従事しているにもかかわらずお金持ちになった家庭も含んでいます。

このように教会外で結婚する3つの誘惑は、使徒ヨハネが述べているように、「すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇り」なのです（第一ヨハネ 2:16）。これらは神様に属しているものではありません。

神様は私たちに「不信者と、つり合わないくびきを共にするな」（第二コリント 6:14）と警告されています。通常、この御言葉は、一度一緒になると一生離れることができない「結婚」に適用されます。

未信者と結婚した人に起こること

それでは、未信者と結婚した人にはどのようなことが起こるのでしょうか？ 彼は自分の妻を回心させられるのでしょうか？

聖書は私たちに「また、夫よ、あなたも妻を救いうるかどうか、

どうしてわかるか」（第一コリント 7:16）と語っています。

たとえ妻が夫を通してクリスチャンになったとしても、未信者の家族や親戚から迫害を受けるかもしれません。また、その子どもたちは、仏教や無神論、あるいはシャーマニズムを信奉する母方の祖父母、おじ・おばなどから深く影響を受けることになるかもしれません。

それらが実際に起こる可能性は高く、子どもたちは、ネヘミヤの時代に異邦人の言葉しか話せなかった混血児のようになったり（ネヘミヤ 13:24）、その親たちもまた、大きな祝福を受けたにもかかわらず、最終的には神様から心が離れてしまったソロモン王と同じ道を歩むことになったりしかねません（第一列王記 11:6～11）。

今年は例年と同じ水準で信者数が増加するとしても、以前の教会史では見られなかつたほどの多くの人々が教会から離れていいくでしょう。なぜでしょうか？ 迫害でしょうか？ 人間社会が進歩したからでしょうか？ そうではなく、信者と未信者の結婚がその原因なのです。



サタンはキリストの体となる教会に対抗するための武器を数多く持っています。小さなですが、サタンにとって最も効果的な武器のひとつは、美しい女性です。イスラエルの民が約束の地に入ろうとしたとき、バラムはイスラ



神様は私たちに「不信者と、つり合わないくびきを共にするな」(第二コリント6:14)と警告されています。通常、この御言葉は、一度一緒にすると一生離れることができない「結婚」に適用されます。



エルの民を呪おうとしましたが、実際はできませんでした。彼は、美しい女性を送ることによって、イスラエルの民を偽りの偶像礼拝に導き、滅ぼそうとしました(民数記25:1～9、黙示録2:14)。

世俗的な美しさや才能、あるいは身分のために、神様のご計画を妨害しないようにしましょう。青年のクリスチャンは、まずは自身が神様に忠実に仕えながら、神様に仕える女性から妻を選び、家庭を築いていきましょう。そうするのであれば、神様の祝福が子どもだけでなく、孫の世代にまで臨むことでしょう。

愛する兄弟よ、あなたと結婚を考えているすべての青年のために、今後も祈ります。そして、このイエス院にいるすべての人たちも共に祈ります。救いの祝福に続いて大きな祝福である結婚。神様が、結婚に相応しい女性をあなたと出会わせてくださることを信じます。

「あでやかさは偽りであり、美しさはつかのまである、しかし主を恐れる女は、ほめたたえられる。その手の働きの実を彼女に与え、その行いのために彼女を町の門でほめたたえよ。」(箴言31:30～31) †

作戦命令 「祭司」



ユダヤ人は、律法の書であるモーセ五書を単に五つに分類せず、一年間で54のパートに細く分けて、まるで畑を耕すように巻物を読んでいます。これは「トーラーポーション」と呼ばれます。彼らの聖書通読表のようなものです。単に節の長さで区分されておらず、実生活に適用できるように、律法の書のテーマと歴史的背景が絶妙に調和されています。

キム・ジョンウン博士は『エディトロジー』という著書で、創造は編集であると解説しています。同じ御言葉でも、「どこからどこまで読む」という編集が、実は非常に強い意味を持ちます。レビ記では、「ヴァイクラー(そして彼(主)は呼んだ)」という最初のトーラーポーションに継ぐ二番目のパートは、「□□ ツアブ(命令して)」、レビ記6章8節から8章36節までの御言葉です。

神様は、ご自分の民を呼び寄せて、礼拝のために祭司を立てなさいと命令されました。レビ記には、この地に神の国が臨むための神の助言が盛り込まれています。神様は、この地を直接司られるのではなく、祭司を立てさせ、彼らにこの地と民を委任して、統治されました。

アダムは第一の人間であると同時に、祭司でもありました。彼は、単に生存と繁殖のために創造されたのではありません。神様が委ねられたエデンの園を「守り、耕す」王として、また、地に祭壇を築き、神様を礼拝する祭司として立てられました。以後のノア、アブラハム、アロンも祭司として召されています。彼らは地を守る者であり、同時に礼拝者でした。

祭司が全き者として堅く立てば、その地は祝福を受けて平和ですが、祭司がつまずけば、その国と時代は混沌と破滅の渦に包まれてしまいます。祭司を立てるることは、国の存亡を決める一大事だったのです。それゆえ、まるで軍隊のように、神様は「命令」によって祭司をお立になりました。神様の命令は、必ず服従し、完遂すべき絶対的なものです。レビ記は祭司を立てさせる命令なのです。

父と子

神様は祭司を召される場合、「アロンとその子たち」を一緒に呼び寄せます。父と子が共に祭司の召命を受け、一つのチームとして立てられるのですが、これは非常に驚くべきことです。私たちが想像する旧約の祭司は、ひげをたくわえた壯年男性ですが、神様が祭司を立てられる時、父親であるアロンだけでなく、息子



も共に呼ばれました。祭司の召命は世代を通して与えられました。祭司は一人ではなく、父と子の連合で立てられたのです。

「彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を擊つことのないようにするためである」（マラキ 4:6）

旧約における最後の御言葉は、このように父と子が一心に立ち帰りなさいというものでした。でなければ、地が裁きの呪いを受けるであろうという衝撃的な預言でした。

私たちは子どもの世代を「次の世代」と考えます。しかし、祭司職は、アロンが引退したあと、その息子たちが祭司になるという世襲制ではありませんでした。彼らは最初から「一緒に」召され、「共に」立てられていました。今日、私たちの生活において、

父と子が「一緒に」することはあまりありません。子どもも大人も常に忙しく、生活のすべてで分離されています。レビ記には、父と子が一緒に火を守りなさいという命令があり、神の国は父と子によって建てられるのです。

「アロンとその子たちに命じて言いなさい、『燔祭のおきては次のとおりである。燔祭は祭壇の炉の上に、朝まで夜もすがらるようにし、そこに祭壇の火を燃え続かせなければならない』」（レビ記 6:9）

私たちが今受け取るべき第一の命令は、まさにこれです。生活の場で子どもと一緒に祭壇の火を灯し続けることです。非対面の礼拝が続いているなかで、私たちに与えられた命令は、子どもたちと一緒に捧げる毎日の礼拝です。私たちは子どもたちと一緒にこの祭壇の火を守らなければなりません。長い間築かれた主日堅守の伝統が崩れている今だからこそ、私たちは毎日の礼拝を守り抜く恵みへと反転しなければなりません。

父と子の連合では、その鍵は子どもたちにあります。レビ記には「祭司は亜麻布の服を着、亜麻布のももひきを身につけ」（レビ記 6:10）——下半身を隠す——という命令があります。下半身はその人の恥部や弱さを象徴します。亜麻布のももひきは、父の羞恥を隠すものです。創世記で、ノアの息子であるセムとハムとヤペテは、洪水後に酒に酔った父の恥部を見ます。ハムと彼の子カナンは、その恥部を明かして呪いを受けますが、セムとヤペテは着物を取り、後ろ向きに歩いて、その着物で父の下半身を隠しました。

誰にも恥ずかしい部分、弱さはあります。しかし、それを露わにすることが正義であり、知恵であるという世の中の主張に流されてしまいかねません。父の羞恥を隠す息子の後ろ向きの歩みは、すなわち、祭司の亜麻布のももひきです。ギリシャ神話のように、父親を殺してその羞恥を露わにする時代でも、神の祭司たちは後ろ向きに歩いて、亜麻布の衣でその羞恥を覆うことで、天の祝福を受けます。

レビ記の前半部では、燔祭と素祭、酬恩祭、罪祭、愆祭の5大例祭を解き明かしています。ところが、これらすべての例祭は、結局、祭司を立てるための委任の命令だったことが明らかです。

「祭司たちのうちのすべての男子は、これを食べることができる。これはいと聖なるものである」（レビ記 6:29）

レビ記での「食べる」とは、単にお腹を満たす食事ではなく、礼拝と同一視される概念です。食べることが礼拝であり、礼拝は食べることです。祭司が供え物を飲み込むことで同一の聖さを得ることができ、同時に供え物も聖くなります。

何をするにも、礼拝を起点にすることです。食べることと同時に、食べないことも重要です。「脂肪と血とをいっさい食べてはならない」（レビ記 3:17）という禁止規定は、エデンの園での「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善惡を知る木からは取って食べてはならない」（創世記 2:17）という御言葉とつながります。「血を食べてはならない」の命令は、生命の根源を祭司が取ってはならないという意味です。言い換えれば、祭司は生命の主権者ではなく、その権限は神様にあります。

祭司が人々を赦し、生かすのではありません。キリストの血潮がそうするのです。また、「脂肪」は繁栄と富を意味しますが、これを食べてはならないということは、私たちが繁栄と利益を得るのではなく、神様に感謝して栄光を歸し、自らを聖別することが、すなわち、礼拝であると明らかにしているのです。

レビ記8章の任職式は、神様の一方的な油注ぎではありませんでした。「全会衆を会見の幕屋の入口に集めなさい」という命令から始まるように、祭司を聖別し、衣服を着せて聖く立てるのは、すべての民の中で行われました。

レビ記では、祭司と民たちは互いの生命によってつながっています。民たちの罪が祭司の罪となり、祭司の罪が民たちの罪となります。そうしてこそ、「贖い」の生贊が可能となります。このようにアロンとその息子たちを祭司に立てる御言葉に従って、祭司は立てられたのです。

祭司の任職式は、全7回の「命じられたとおりである」で完成されます。アロンは元来、金の子牛の礼拝を主導した罪人です。一般的な基準では、祭司の資格がないといえるでしょう。しかし、そのような資格のない罪人を最も聖い通路である祭司にお立てになるのが、神様の戦略です。罪人の頭のような使徒パウロも、そのように異邦の光として立てられたのです。神様は「命令」されることで、罪人を祭司とされたのです。

アブラハムは、約束の地を委ねられた王のような祭司としての責任感がありました。それゆえ、ソドムとゴモラを滅ぼそうとされる神の歩みが変わるように懇願し続けました。私たちも王であ

る祭司として召されたことを知っているならば、この地を守り、礼拝を捧げる者として立たなければなりません。委ねられた地と民の生命に対する責任は私たちにあります。

コロナ以後、うつ症状の患者が百万人を超え、自殺を考えている人も2倍ちかくまで増加したという記事を読みました。私たちが子どもたちとともに、このような現実を悲痛し、切に祈らなければなりません。

詰め込み式の教育に慣れている私たちは、子どもたちと一緒に守る礼拝を、単に信仰教育という視点で捉えがちです。ですが、これからは子どもたちと一緒に、滅んでいく人々のために切に祈り、貧しい人々のために悲しみ、善い行いを実践していくなければなりません。「あなたがたの人生と、子どもたちと父親たちの連合をとおして、祭司という実を結びなさい」——これがこの時代に対する神様の命令です。†

* 狹き門、狭き道

カン・サン 牧師／十字架教会／御言葉の前に立つあなたに>著者

お金の下で生きるのか？ お金の上で生きるのか？



伝道師時代の私の給料は約6万円でした。経済的にとても苦しかったのですが、助けを求める人がいれば、常に最善を尽くして仕えました。安養（アンヤン）の山奥にある借家で暮らしながらも、私たち夫婦は大勢の人々を助け、もてなしていました。

ある時、中年の女性伝道師が「ノートパソコンが必要」と言うので、用途と予算を聞いて、中古市場で2万円のものを代理で購入したことがあります。ノートパソコンの購入に至るまでに多く

の時間を費やしましたし、購入後も彼女が望むソフトを追加購入してインストールするなど、さらに多くの時間とお金がかかりました。その女性伝道師にノートパソコンを渡すと、「自分にぴったりだ」と感謝しながら喜んでいたので、私は幸せでした。

しかし、「すぐに渡す」と言われたその購入代金は、20年経っても支払われませんでした。私と違ってその伝道師には家も車もあり、相当な額の夫の給料もありました。それなのに「後で、後で」と引き伸ばされているうちに、ある日電話番号が変わり、連絡さえ取れなくなりました。正直、私は悔しくて腹が立ちました。貧しい人なら貧しさゆえにと理解できるところがあるのですが、私より裕福な人がなぜお金を踏み倒すのかが全く理解できませんでした。特に経済的に苦しい状況が続いていましたので、折につけ、その2万円、いやその2万円を払わなかつた伝道師のことを思い出すたびに辛かったです。

しかし、御言葉と祈りで成長する歳月を十分に経てから、過去を振り返ってみると、私はその2万円よりも多くのお金と品物を受けていたことに気づきました。名前も理由も告げず、その数十倍に相当する金額をくれた人がいました。誰かが未払いの家賃を支払ってくれたり、偶然会った牧師が教会のシンセサイザーを買ってくれたりもしました。食べ物や着る物の献品もありました。そのような恵みを受けていたにもかかわらず、2万円のことばかり思い出していたのは、私が成長しておらず、靈的な視点の変化がなかったからでした。

自分とその伝道師のことばかりを考えていて、その上におられる神様を見ていなかったのです。貸した人と借りた人のことだけ

を考えて、それよりももっと大きなお金の流れを司っておられる方に考えが至っていませんでした。しかし、ある時に悟りました。すべての金銀の持ち主である神様（ハガイ 2:8）が、地上のお金の流れを司っておられることを悟ったのです。

私たちは借りたものを返せないときがありますが、神様は他人への施しには必ず報いてくださるほか、それ以上に満たしてくださいます。マタイによる福音書18章にあるように、一万タラントの借金を帳消しにしてもらったにもかかわらず、わずか百デナリを返せなかつた人を獄に入れた悪人と同じだったことを悟りました。私は深く悔い改めて、すべての禍根から解放され、自由になりました。

多く分かち合う人が金持ち

確かに多くのクリスチャン（イエス様を信じたばかりの聖徒から、優れた靈性を持つと自負する牧師まで）が今日もお金のことで葛藤しています。金が多いか少ないかだけに気を取られています。

しかし、視点を変えて、成長しなければなりません。持っているお金の額より重要なのは、神様の基準、聖書の基準でお金の使い方を決定することです。私たちは、自分がお金の下で暮らしているのか、それともお金の上で暮らしているのかを確認しなければなりません。いくらお金が多くても、お金の下で生きているのであれば貧しく、いくらお金が少なくとも、お金の上で生きているならば、その人は豊かなのです。

神様と関係なくお金の下で暮らせば、絶えない不安と比較意識、貪欲と虚栄心で貧しく死ぬしかありません。しかし、神様と一緒にお金の上で生きるのであれば、分かち合いを通して神様が与えてくださる祝福を期待しながら、感謝のうちに過ごすことができます。聖書は、たくさん持っている人を金持ちとは呼ばず、たくさん分かち合う人を金持ちとしています。

そこで私は、自分の誕生日をもらう日としてではなく、分かち合う日としています。毎年その月には、私への贈り物よりも多くの物を他人に分かち合います。一年かけて良い本やプレゼントを準備しておき、必要な人に贈るのです。この分かち合いを通して、一緒に祈り、仕える同僚者が与えられてきました。

自分の魂に感動を与える話や、説教資料として使えるものがないかと、「しなんげ」のページをめくっているのでしたら、物質の領域に変化をもたらす実践を1つしてみてはどうでしょうか。理解や感動ではなく、行動が人生を変えていきます。

肉体を着ている人間にはお金は必要です。しかし、永遠の命を所有している私たちには、それよりも神様が必要です。お金に従うのではなく、神様に従って生きましょう。神様とお金をライバルにしないで、神様をお金の持ち主として認めましょう。そうすれば、神様と一緒にお金の上で生きる秘訣を享受できるでしょう。今の私はお金の下にいるのか、それとも、お金の上にいるのか、すぐに自己点検してみましょう。

「この世で富んでいる者たちに、命じなさい。高慢にならず、たよりにならない富に望みをおかず、むしろ、わたしたちにすべ

ての物を豊かに備えて楽しませて下さる神に、のぞみをおくよう
に、また、良い行いをし、良いわざに富み、惜しみなく施し、人
に分け与えることを喜び、こうして、眞のいのちを得るために、
未来に備えてよい土台を自分のために築き上げるように、命じな
さい」（テモテへの第一の手紙 6 章 17 節～19 節） †

発行：純福音東京教会 文書宣教会・しなんげ出版部

【翻 訳】：趙 榮珍 執事、李カレン 執事、林 俊秀 教育生、李 珍 執事、金原英興 按手執事、

朴 宰完 按手執事、青年部翻訳チーム、金澤由紀子 助士

【日本語校正】：垣内温子姉妹、篠崎栄姉妹、今村和世 執事、吉田綾子 執事、向川誉 執事、
澤田義則 執事

【印刷・製本】：間杉典生 按手執事

【再 編 集】：金澤由紀子 助士

【監 修】：武石哲夫 按手執事

しなんげ

10
2021

愛する者よ。
あなたのたましいが
いつも恵まれていると同じく、
あなたがすべてのことに恵まれ、
またすこやかであるようにと、
わたしは祈っている。(ヨハネ 1:2)

